

研究データ共有による イノベーションの創出

第8回RDA総会等の国際議論を踏まえて

日時: 2016年10月3日(月) 14:00~17:30 (開場:13:30)

場所: 国立国会図書館 東京本館 新館講堂

プログラム(敬称略):

 #JaLC_RDUF

14:00~14:05 開会にあたって

国立情報学研究所教授、協議会会長 武田 英明

14:05~14:15 講演「RDAの概要とJaLC研究データ利活用協議会について」

国立情報学研究所教授、協議会会長 武田 英明

14:15~14:30 講演「オープンサイエンスを巡る世界の最新動向」

情報通信研究機構統合ビッグデータ研究センター研究統括、協議会副会長 村山 泰啓

14:30~15:45 第8回RDA総会参加報告

国立情報学研究所特任准教授 蔵川 圭

国立情報学研究所助教 込山 悠介

科学技術振興機構知識基盤情報部長 小賀坂 康志

物質・材料研究機構技術開発・共用部門科学情報プラットフォームエンジニア 田辺 浩介

国立国会図書館電子情報部電子情報企画課 山口 聡

15:45~16:00 Digital Infrastructures for Research 2016参加報告

国立情報学研究所准教授 山地 一禎

16:00~16:15 (休憩)

16:15~16:30 講演「RDA総会他から見えてくる研究データ共有の現状と国の科学技術・学術政策への示唆」

文部科学省科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター上席研究官 林 和弘

16:30~17:25 フロアも交えたディスカッション

司会: 文部科学省科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター上席研究官 林 和弘

17:25~17:30 閉会にあたって

国立国会図書館電子情報部長 田中 久徳

◆ 講師ご紹介(発表順) ◆

武田 英明(国立情報学研究所情報学プリンシプル研究系教授)

総合研究大学院大学複合科学研究科情報学専攻。1991年東京大学工学系研究科修了。工学博士。ノルウェー工科大学、奈良先端科学技術大学院大学を経て、2006年より現職。2005-2008年東京大学客員教授、2006-2010年国立情報学研究所 学術コンテンツサービス研究開発センター センター長。専門は Web 情報学、人工知能、設計学。ジャパンリンクセンター (JaLC) 共同運営委員会委員長、ORCID (Open Researcher and Contributor ID) の理事、NPO 法人リンクト・オープン・データ・イニシアティブ理事長も務める。

村山 泰啓(国立研究開発法人情報通信研究機構統合ビッグデータ研究センター研究統括)

ICSU-WDS (World Data System)国際科学委員会 ex officio 委員、日本学術会議特任連携会員、国立極地研究所南極観測審議委員会委員、公益社団法人日本地球惑星科学連合理事。1999-2006 年は北極域アラスカにおける上層大気観測日米共同研究計画の日本側リーダーを務める。京都大学生存圏研究所客員教授、内閣府「国際動向を踏まえたオープンサイエンスの推進に関する検討会」委員、国立国会図書館科学技術情報整備審議会専門委員などを歴任。文部科学大臣表彰科学技術賞受賞 (2007 年)。京都大学工学博士 (1993 年)。

蔵川 圭(国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課特任准教授)

設計工学、ソフトウェア開発関連の教育・研究を経たのち、NII において学術情報データベースと関連サービスの研究開発を行う。学術情報流通コミュニティの関心の対象が論文や本のカatalogから本文へと変化し、ここ 5 年の間に研究データへと完全に変化してきているのにあわせ、分野を超えた研究データ共有を目指す RDA に参加している。

込山 悠介(国立情報学研究所コンテンツ科学研究系助教)

博士 (農学)。生命医薬分野 (バイオインフォマティクス) の知識構造化とデータベース統合それを用いた機械学習予測手法の開発、ゲノム医科学分野に特化したスーパーコンピューターシステムの研究開発・運用の経験をバックグラウンドに、現在の専門はセマンティックウェブとオントロジーおよび、オープンサイエンス研究支援のための学術情報の知識基盤プラットフォームの構築。東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了。日本学術振興会特別研究員、東京大学医科学研究所特任研究員を経て、現職。2011-2013 年 LOD Challenge 複数受賞(データセット部門優秀賞、国立情報学研究所賞、ライフサイエンス賞)。2015-現在、LOD Challenge 実行委員会委員。2016- NPO 法人リンクト・オープンデータ・イニシアティブ (LODI) 個人会員。

小賀坂 康志(国立研究開発法人科学技術振興機構知識基盤情報部長)

学習院大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了。博士(理学)。JSPS 海外特別研究員(NASA/GSFC)等を経て、2000年名古屋大学大学院素粒子宇宙物理学専攻助手。X線天文衛星を用いた高エネルギー天体物理学研究及びX線望遠鏡開発に従事。2009年JST入職、科学技術振興調整費、A-STEP、再生医療、CREST・さきがけ等のファンディング事業を経て、2015年10月より現職で情報事業を担当。

田辺 浩介(物質・材料研究機構技術開発・共用部門科学情報プラットフォームエンジニア)

物質・材料研究機構において、学術情報流通に関するシステムの設計・開発・運用に従事。東京工科大学大学院助手、慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所非常勤講師などを経て、2012年10月より現職。オープンソース図書館システム「Next-L Enju」(https://github.com/next-l/enju_leaf)の開発者。

山口 聡(国立国会図書館電子情報部電子情報企画課連携協力係係長)

2002年、国立国会図書館入館。調査及び立法考査局国会レファレンス課を経て、経済産業課でエネルギー分野の調査に従事。2016年4月から電子情報部電子情報企画課連携協力係長として、ジャパンリンクセンター(JaLC)関連業務、デジタルアーカイブ連携等を担当。

山地 一禎(国立情報学研究所学術リポジトリ推進室准教授)

2000年豊橋技術科学大学大学院博士課程修了・博士(工学)。同年日本学術振興会特別研究員(和歌山県立医科大学眼科学教室)。2002年より理化学研究所脳科学総合研究センター研究員。2007年より国立情報学研究所学術ネットワーク研究開発センター准教授。2012年より同学術認証推進室准教授。2015年より同学術リポジトリ推進室室長・准教授。現在に至る。データシェアリングならびにその基盤に関する研究開発に従事。電子情報通信学会、情報処理学会、情報知識学会各会員。

林 和弘(文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術予測センター上席研究官)

東京大学大学院で有機化学を専攻しながら、1995年頃に行った日本化学会ジャーナルの電子化をきっかけに、学術情報流通の変革(デジタル化、Web化、オープン化)に対して包括的に取り組む。日本化学会学術情報部課長を経て、2012年より現職。科学技術予測と共に学術情報流通と研究者のコミュニケーションの将来に関する調査研究を行い、現在はオープンサイエンスや研究活動の新しいメトリクスに関心をもつ。